**高千穂峡　概観**

高千穂峡は、五ヶ瀬川の流れで渦巻く深さまで急落する劇的な地形です。日本の歴史と伝説の誕生に大部分を占める神と女神の存在で満たされている。高千穂峡は、120,000年以上前に山の二度の噴火による火砕流によって形成されました。阿蘇は、1934年に国の名勝と天然記念物に指定されました。 1965年に、この谷は祖母傾国定公園に含まれました。時間の経過に伴う冷却と浸食により、竜の背中の鱗の外観のような形を備えた玄武岩の崖が作成され、渓谷への訪問はさらに思い出深いものになります。崖の高さは80メートルから100メートルの範囲で、1キロメートルの渓谷のプロムナードから見ると、薄い壁を見下ろしたり、五ヶ瀬川を漕ぐ小舟から間近で見ることができます。その他には、3つのアーチ型の橋の比類のない景観によって強化された真名井の滝がみられます。谷の伝説の1つでは、1591年に三田井城の陥落から逃れた侍が川を渡る方法がなく、橋として使用するために巨大な槍を投げたと説明しています。神話の別の言い伝えとして、イザナミとイザナギが日本の自然の形成と人々を産んだと信じられているオノコロ池があり、また大きな巨石は鬼八の石と呼ばれ、彼は神武天皇の兄弟ミケヌノミコトに負けた伝説の戦いがありました。